

序

平成 20 年度の研究成果をまとめた研究報告書が出来上がりました。ご指導ご協力いただきました皆様には感謝申し上げます。

東京都立衛生研究所の昭和 24 年度の研究をまとめて年報として発刊した第 1 号から数えて、今号で、ちょうど人間で言えば還暦に当たる第 60 号となります。第 1 号を手にとると、細菌培地の改良、化粧品に含有される鉛、狂犬病の検査に基づく疫学状況、食品添加物としての色素料などの研究がなされ、戦後間もない物資が非常に少ない時代にもかかわらず、今日までに通じる都民の命と健康を守るための行政機関ならではの調査研究が行われていたことがわかります。我が国は、生活環境の整備や保健医療の進歩により健康水準はめざましく向上してきましたが、新たな健康危機として、新興感染症や食の安全を揺るがす事件、食品添加物や残留農薬、違法ドラッグ、水や大気等環境汚染など次々と問題が起こっています。健康危機発生の予防や早期探知・拡大防止のための科学的アプローチとしての試験検査・調査研究はますます重要になってきています。健康危機時に迅速かつ機動的に対応するため、都立衛生研究所は、平成 15 年に、食品、医薬品の監視指導の部門を統合し、東京都健康安全センターと名称も変更し、機能強化をいたしました。さらに施設設備も安全性が高く 24 時間 365 日対応可能なように、10 年近く中断していた新棟建設が 11 月から始まりました。

当センターの研究は、研究課題の選定から結果まで、内部、外部の研究評価会議の審査を受け実施しております。平成 18 年度から 20 年度の 3 年間ににおいては、3 つの重点研究として、新興再興感染症起因病原体の診断及び解析法に関する研究、違法ドラッグによる危害の未然防止に関する研究、アスベスト及びその代替物の検査法の開発と生体影響に関する研究を実施したほか、12 の課題研究、5 の基盤研究を実施しました。研究成果は、この報告書に掲載しているもののほか、著書や内外の学会や論文に発表しており、その概要は巻末に示しております。

さて、5 年ほどまえから、当センターでは、新型インフルエンザなどの新興・再興感染症の発生に備え、新たな迅速試験法の開発やウイルス変異などの研究とともに、感染症情報センターとして海外の都市との連携も含めた情報ネットワークの構築を図って参りました。本年春に発生した、豚由来の A 型 H1N1 新型インフルエンザはまたたくまに大流行をしておりますが、当センターでは、その役割であるウイルスの試験検査と発生動向の疫学分析、情報発信の両面から迅速・的確に対応しております。これも、これまで培ってきた試験検査・調査研究の基盤が盤石なものであったからこそと自負しております。

今後とも、都民の命と健康を守るための調査研究に努めてまいりたいと思います。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

平成 21 年 12 月

東京都健康安全研究センター所長 中西 好子